

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2072700632		
法人名	特定非営利活動法人慈千会		
事業所名	グループホーム波田の家		
所在地	長野県東筑摩郡波田町9465番地1 (電話) 0263-91-3311		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年4月2日

【情報提供票より】 (平成20年 2月25日 事業所記入事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤12人, 非常勤 6人, 常勤換算11.65人	

(2) 建物概要

建物構造	1ユニット・・・鉄筋造り、2階建て1・2階部分
	2ユニット・・・木造造り、1階建て1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	12,000円(冬季+3,000円)	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (60,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	430 円	昼食	430 円
	夕食	430 円	おやつ	40×2回 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年 2月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	11	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 上条医院(内科) ・ 中央歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上高地から流れる清流・梓川流域南岸の広い平坦地の同じ敷地内に本宅(1ユニット目)と新宅(2ユニット目)を配したホームがある。居間や居室の窓外には広大な景色が広がっており四季折々の移ろいを目で感じることができる。平成16年3月に開所した本宅は社員寮を改修した2階建てで全室南向きしている。開所一年を過ぎた新宅は平屋造りで本宅運営の経験を経て、スペースもゆったりとしており、随所に工夫が見られる。両ユニットとも入居者の集いの場である居間兼食堂にはペレットストーブが備え付けられており環境にも優しい配慮がされている。和気藹々と職員と共に食事をとる入居者の姿を目の当たりにし、良好な関係が築かれていることが窺えた。ホームの開設・運営に尽力し、含蓄のある言動で親しみを感じさせる理事長をはじめ、管理者・職員も経験豊かな人材を揃え、清掃の徹底など細かな積み重ねを大切にしている。土地柄に合ったごく普通の流れで地域の人々ともふれあい、「手作りの味」へのこだわりで代表されるように、まさに入居者・職員一体となった「まごころあふれるホーム」を築き上げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題については、食事の摂取量の業務日誌への記載、栄養バランスについての町の栄養士からのアドバイス、職員の救急救命講習の受講等、項目の改善に即取り組んでおり、その後も継続されている。前向きな姿勢に頭が下がる思いであった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については職員会議等で全員が一読し、見直しすべき点を把握・検討し、各自の署名により全員で最終確認をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーは固定されておらず、テーマに応じた人選で気軽に参加できるよう招集にも配慮している。地域の大勢の方がかかわることでホームへの理解も深まっている。会議のテーマも画一的でなく、入居者の目線に立って優先順位が決められている。転倒予防や口腔衛生についてなど、時には入居者全員が参加することもある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時や毎月発行のホームだより等で暮らしぶりを知らせている。メールでやり取りしている家族もある。健康状態についても電話で連絡・相談している。家族の来訪は多く、気軽にコミュニケーションをとれるように職員全員で努力している。事故報告書等も整備されており、問題解決については前向きに取り組んでいる
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り等に出かける一方、町の健康推進委員、民生委員等の見学も受け入れ、ホームの地域への浸透に努めている。小学生との交流や中学生の職場体験学習では初めて高齢者と接する子もいるが、終了時には高齢者への接し方にも慣れ感動して辞する子もおり、その後も関係を継続している。地域の社会的資源も有効に活用しており県農業試験場の採種後のカボチャを頂いたり、近所から野菜や果物のおすそ分けもあり、大量にいただいた時は加工して冷凍保存として有効利用している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの、「家庭的な環境の下で・・・」という理念が掲げられている。理念を具体化するための運営方針に「地域住民との交流を深め、・・・」と盛られており、入居者が住み慣れた地域の中で安心して生活を送れるよう支援がされている。	○	制度改正前のグループホームの基本方針が貫かれ、運営方針で補足されているのでケアの面では問題はないが、理念を見直される機会があれば、「地域住民との交流の・・・」等の文言を加え、更に実践されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は本宅(1ユニット目)、新宅(2ユニット目)ともにリビングの一角に掲げられている。毎月1日の職員会議では理念に触れており、意識づけも行われている。職員も自分の言葉でより具体的に理解しており、実践へと繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りやぶどう狩りに出かけている。町の健康推進委員、民生委員等の見学もある。小学生との交流や中学生の職場体験学習では初めて高齢者と接する子もおり、終了後も関係を継続している。近所から野菜や果物のおすそ分けもあり、大量にいただいた時は加工し冷凍保存として有効利用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の要改善点についてはホームなりに咀嚼して即改善につなげた。今回の自己評価については職員会議等で全員が一読し、見直しすべき点を把握、各自の署名により最終確認をした。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーは固定されておらず、テーマに応じた人選で気軽に参加できるよう招集にも配慮している。テーマも画一的でなく、転倒予防や口腔衛生についてなど、時には入居者全員が参加することもある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長が町会議員でもあり、町役場や町職員との往来はある。管理者が権利擁護等の関係から他市町村窓口にも相談に訪れており、信頼関係を築くように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や毎月発行のホームだより等で暮らしぶりを知らせている。メールでやり取りしている家族もある。健康状態についても電話で連絡・相談している。預かり金については家族の来訪時に確認のサインをいただいている。また、年2回レシートを書面に添えて家族宛に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、重要事項説明書にて相談・苦情等については説明がされている。家族の来訪は多く、気軽にコミュニケーションをとれるように職員全員で努力している。事故報告書等も整備されており、問題解決については前向きに取り組んでいる。定期的な家族の茶話会については検討段階である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。理事長はホームに毎日顔を出しており、管理者も職員との対話を大切にしている。月1回の全体会議以外にも相談しやすい体制づくりがされている。馴染みの関係づくりについては十分意識しており、職員の異動については最小限に留める努力をしている。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修実績表が整備されており、一目瞭然で内容が把握できる。研修を勤務の一環として位置付けており、報告書も細かく記入され、ファイル化されている。研修結果は会議等で報告され、職員全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長、管理者、職員のネットワークを通じ、同業の施設やグループホームの職員と交流している。他ホームからの研修の受け入れや他施設への実習を通じてサービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の自宅や入院先を訪問し、聴き取りによるアセスメントで様々なパターンに応じている。見学の受け入れや体験入居の体制も整備されている。最終決定は理事長と計画作成担当者で行っている。入居後も家族の面会や時には宿泊もしていただいたり、会議等で職員の意見を集約し、早期にホームに慣れるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として、支援する立場・支援される側にとらわれず、一緒に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。職員も含め、毎日同じ顔ぶれでの生活からか、入居者は次第に家にいる時より落ちついてくるといふ。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今、何をやりたい・・・?」といった職員の声かけから歌を歌う等に発展している。意向等を表出できない入居者もいるが、「食器洗いや買物をしたい」、「席の位置はあちらがいい」等の細かな要望・意向にも沿うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴を含めた入居時のモニタリングは詳細にされている。家族の来訪時や遠方の家族とのメール等により意見・要望を聴き取り介護計画に反映している。必要性から医師との面談後の指示事項も計画に盛り込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。ケアプラン見直し表を作り月に3人ずつ見直ししている。ADLに変化が見られる場合は随時、計画の立て直しをしている。介護計画書は入居者や家族がわかりやすい記述内容になっている。家族のサインも確認できた。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは看護師を配置しており、「医療連携体制加算」の指定を受けている。入居者と家族の要望にはその都度対応しており、お墓参りやかかりつけ理美容院への送迎等、外出の支援も行っている。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医で受診している方が多い。かかりつけ医が遠方の場合や状態変化により、電話や手紙等で連絡を取り、入居者や家族の承諾のもと、協力医等に変更している。入居者の状態により訪問診療・訪問リハビリを受ける体制を整備し、褥瘡等を回避したこともある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的な処置が必要のない場合は基本的に看取りをする方針で、職員会議でも検討し、意思統一を図っている。看取りの必要な入居者については早い段階で本人・家族と方針について十分話し合っている。主治医との連絡も密にし訪問診療等で協力していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉の内容や語調、態度については厳しく指導がされており、一人ひとりの尊厳を守るようにしている。「個人情報承諾書」も家族からいただいております利用目的も明確にされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのおおよそその一日の流れはあるが優先ではなく、本人のペースが尊重されている。お墓参り、美容院へ行くなど、入居者のしたいことをその日の出来る範囲で対応している。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の楽しみの一つである食事・おやつは「手作り」を基本としている。ホームの庭先で収穫したトマト、ネギ、きゅうり、ピーマン等収穫したものを食事時の話題に取り上げている。配膳から片付けまで、入居者の自主性を重んじ、出来る方には加わっていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、月曜日と木曜日が入浴日となっている。夏場の畑仕事の後にはシャワー等も浴びることができる。入浴を拒む方には言葉かけや対応の工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴等を把握し、それぞれの自主性を重んじ支援している。雑巾掛けや食器洗い、手洗い場の拭き掃除、洗濯物たたみ、干し柿づくり等の役割がある。入居前からの趣味を継続している方もおり、編物、色紙描き等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や日帰り温泉、外食等のホームの行事予定に沿って外出するほか、買物や散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	両ユニットとも日中は鍵をかけていない。中扉には小さな鐘をつけているが、外出傾向のみられる入居者には見守りで対応している。		

グループホーム波田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難訓練を春・秋年2回実施している。一人の宿直体制での夜間想定訓練も実施している。職員は地元の在住者が多いので、緊急の場合にはすぐ駆けつけられる体制づくりがされている。運営推進会議でも地域の方、消防署員、警察署員等を交え防災対策について話し合い、緊急時の協力を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌には食事の摂取状況が記載されており、特に食事の残量については入居者名に付され記されている。入居者一人ひとりの状態に合わせ、刻みなどの調理方法やメニューを変更することもある。栄養バランスについては町の栄養士に年数回来てもらい献立の内容等にアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本宅(1ユニット目)は社員寮を改修した2階建てであるが、エレベーターを据えつけるなど、内部は入居者の利便性に合わせた造作となっている。新宅(2ユニット目)は平屋造りで本宅運営の経験を経て、随所に工夫がされている。両ユニットとも入居者の集いの場である居間兼食堂にはペレットストーブが備え付けられており環境にも優しい配慮がされている。天窓からはやわらかな日差しが差し込み、ホーム内には花鉢や生花も飾られ明るい雰囲気である。居間や居室の窓外には広大な景色が広がっており四季折々の移ろいを目で楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には入居者に合わせ色々な目印がされている。両ユニットとも床はフローリングで各居室とも掃除が行き届いており、清潔感にあふれている。使い慣れたベッドや小家具、壁には写真や手作りのカレンダー等が飾られ、備え付けのロッカー(押入れ)もあり、全体に整理整頓がされ、小奇麗にまとめられている。		

※  は、重点項目。